

岡山大学の歯科医師臨床研修 の取り組みについて

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

窪木拓男

岡山大学病院歯科医師臨床研修センター

鳥井康弘，武田宏明

健康長寿社会を担う歯科医学教育改革 —死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制構築—

達成目標: 口腔から全身健康に寄与できる歯科医師、及び、急性期、回復期、維持期、栄養サポートチーム(NST)、在宅介護現場をサポートできる歯科医師を育てる。また、適切な死生観に基づき、患者の病床、介護現場や終末期に寄り添えるプライマリケア歯科医を養成する。さらには、高齢者の「食」を基盤とした健康増進、介護予防、虚弱予防を目指した新しい歯学教育・研究を推進できる歯科医師を育てる。

課題

1. 歯科医師は患者の死や人生に寄り添うことに慣れていない
2. 健康な患者に通常行われる歯科的診断と治療が要介護者にそのままあてはまらない
3. 急性期病棟での多職種連携実習や在宅介護実習の教育の場が不足
4. 教育機会が不均等で共通教育ツールが不足
5. 周術期管理や要介護高齢者における歯科的介入を支える臨床エビデンスや基礎的知見が不足

①講義シリーズ(連携大学共通, 6単位)

○口腔と全身健康の関わり(2単位), ○がんの化学療法や各種外科的介入等における周術期管理(2単位), ○老人介護施設や在宅介護医療における歯学教育, 死生学, 多職種連携, 地域包括ケア(2単位)

②シミュレーション・PBL演習

○全連携大学に要介護高齢者を模したシミュレータを配布, プレクリニカル演習を開発
○老人介護施設見学や地域医療人材育成講座の地域医療実習を利用したPBL演習を提供する。

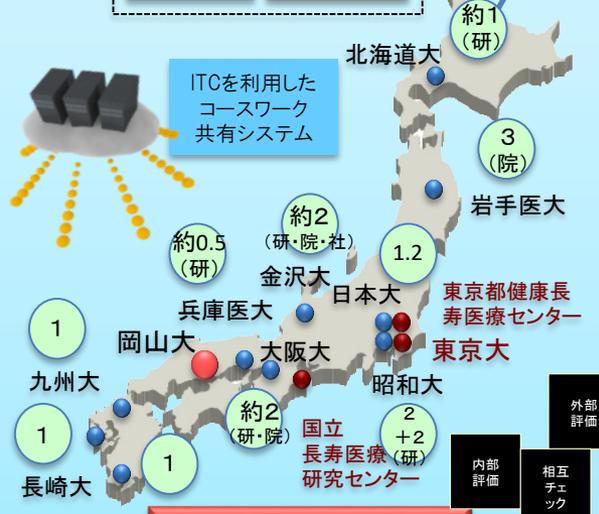
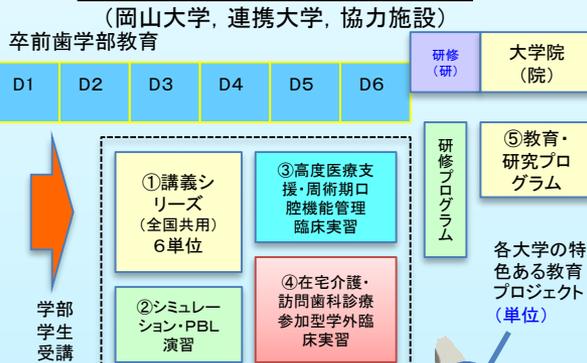
③高度医療支援・周術期口腔機能管理実習

○岡山大学病院周術期管理センターにおける多職種連携実習(右)
○昭和大学病院の医歯薬保健学部合同病棟実習など

周術期管理センターのメンバー



医療支援歯学教育コースワーク



歯学教育改革中核センター(岡山大学内)
歯学教育改革コンソーシアム: 11大学4協力施設
国立大学歯学部6校+医学部が併設されている全私立大学歯学部
—教育効果の全国への波及、均てん化

解決方策

1. 共同授業に死生学や地域包括ケアの概念の導入
2. 医学教育と歯科技術教育の融合, 患者の機能低下にあわせた介入の選択
3. 岡山大学, 連携大学, 協力施設が協力して, 急性期病棟における周術期管理や在宅介護臨床実習を提供
4. 岡山大学, 連携大学, 協力施設が協力して, 全国統一電子化授業ライブラリーを作成し, 共有
5. 教育を支える臨床研究能力の開発, さらなる研究フィールドの確保

④在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習

○長崎大学の離島歯科口腔医療・保健・福祉学実習, ○日本大学の摂食機能療法学学外実習, ○東京大学高齢社会総合研究機構 柏プロジェクト医療フィールド, ○岡山大学の老人介護施設や在宅訪問歯科診療参加型臨床実習(下図)等。



⑤高齢者の疫学研究フィールド

○東京大学の柏研究フィールド, ○大阪大学や東京都健康長寿医療センターのSONIC研究フィールドに歯科として積極的に参画し, 高齢者医療における多職種連携研究を進め, 健康長寿社会を担う医科歯科連携教育に反映する。

今が千載一遇のチャンス

歯学教育・研究は変わらなくてはならない

- 歯学部附属病院だけを教育の場とすることは時代に合っていない
- 歯学教育の場を、**地域包括ケアの要素**に合致させる
 - 超急性期病院のICU等のラウンド
 - 回復期、慢性期病床のラウンド
 - 老人介護施設のラウンド
 - 在宅介護現場
- **医療現場で真に役立つ歯科医師の育成**
- 文理融合、老年医学に寄与できる歯科医学への転換が急務

医療支援歯学教育コースワークの4要素の策定

平成26年4月27日策定 在宅訪問歯科診療参加型臨床実習教育プロジェクト
キックオフシンポジウム(岡山大学)

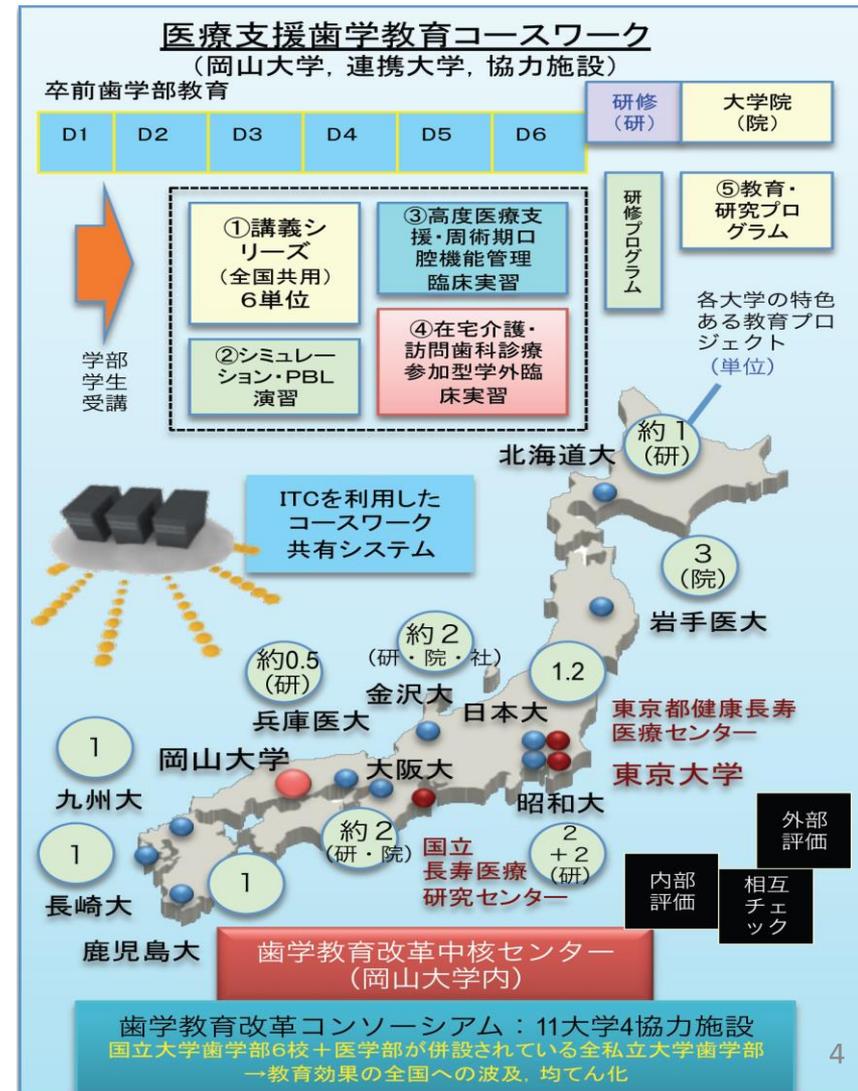
1) 全国共用電子講義シリーズ

- ①死生学・認知症
- ②全身疾患と口腔
- ③急性期医療
- ④在宅介護医療

2) シミュレーション・PBL演習

3) 高度医療支援・周術期口腔機能管理臨床実習

4) 在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習



コンソーシアムの設立とキックオフシンポジウム

医療支援歯学教育コースワークの承認



文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム
「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革」

歯学教育改革 コンソーシアム設立記念 講演会・シンポジウム

開催日 2014
9/26(金)・27(土)

会場 岡山大学歯学部棟2階 第一会議室, 4階 第一講義室
岡山市北区鹿田町2-5-1

◆連携大学：北海道大学、金沢大学、大阪大学、岡山大学、九州大学、長崎大学、鹿児島大学、岩手医科大学、日本大学、昭和大学、兵庫医科大学
◆協力施設：東京大学高齢社会総合研究機構、東京大学死生学・応用倫理センター、東京都健康長寿医療センター、国立長寿医療研究センター
◆主催：岡山大学歯学部（窪木拓男歯学部部長、森田 学教務委員長）、岡山大学病院医療支援歯科治療部（殿田正二副院長、曾我賢彦准教授）
◆共催：岡山大学大学院歯学総合研究科（谷本光吉研究科長）、岡山大学病院（廣野博史病院長）
◆後援：岡山県歯科医師会、岡山県歯科衛生士会、岡山県歯科技工士会

本講演ならびにシンポジウムは、平成26年度文部科学省大学改革推進補助金（事業名：健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—）により実施されます。



文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム
（健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成） 選定事業

参加無料

健康長寿社会を担う歯科医学教育改革

—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—

キックオフシンポジウム

Kick off Symposium

2015
2/13 FRI 15:00~18:30

於：岡山大学歯学部第1講義室

Program

シンポジウム・懇親会受付開始 14:30~

事業責任者ご挨拶

シンポジウム

医学部歯科口腔外科における歯科医師臨床研修プログラムの充実に向けて
座長：岡山大学病院 総合歯科 教授 鹿井康弘 先生

●シンポジスト

全国医学部附属病院歯科口腔科科長会議 会長 富山大学 大学院医学薬学研究部 歯科口腔科学講座 教授 野口 誠 先生

兵庫医科大学 歯科口腔外科科学講座 教授 岸本裕充 先生
金沢大学医療保健研究域 医学系総合歯学 (歯科口腔科学) 教授 川尻秀一 先生

全国医学部附属病院歯科口腔科科長会議 事務局 千葉大学大学院医学研究科口腔科学分科 教授 丹沢秀樹 先生
(指定発言) 神戸常盤大学短期大学部 教授 兵庫医療大学歯科会 会長 足立了平 先生

講演1

「平時」から「有事」まで、オーラルマネジメント“CREATE”を実践できる歯科医療人を養成する
兵庫医科大学 歯科口腔外科科学講座 教授 岸本裕充 先生

講演2

金沢大医学部における歯学教育プログラム
—特色および異体的な取り組み—
金沢大学医療保健研究域 医学系総合歯学 (歯科口腔科学) 准教授 中村博幸 先生

19:00~ 懇親会 岡山大学病院 フードコート (会費5,000円)

2015
2/14 SAT 10:00~16:20

於：岡山大学五十周年記念館

Program

事業責任者ご挨拶

基調講演

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の選定大学に期待すること
文部科学省高等教育局医学教育課 課長補佐 島居剛志 様

特別講演

長寿時代のエンドオブライフ・ケア
東京大学大学院人文社会科学系研究科 死生学・応用倫理センター 上原正生学・応用倫理講座 特任准教授 会田篤子 先生

講演3

歯科における摂食嚥下リハビリテーションの始まりと摂食機能療法演習例の紹介
日本大学歯学部 摂食機能療法学講座 教授 植田耕一郎 先生

講演4

北海道大学における歯科医学教育
北海道大学大学院歯学研究科 臨床教育部門 教授 井上 哲 先生

講演5

長崎大学における離島医療保健実習から何を学ぶか？
長崎大学大学院歯学系 総合歯科臨床教育学 教授 角 忠輝 先生

講演6

離島地域を基盤とした地域歯科医療教育の開発
鹿児島大学大学院歯学総合研究科 歯科教育実践学分野 教授 田口明宏 先生

閉会の辞、次回連携シンポジウム開催担当ご挨拶 (昭和大学)

◆連携大学：北海道大学、金沢大学、大阪大学、岡山大学、九州大学、長崎大学、鹿児島大学、岩手医科大学、日本大学、昭和大学、兵庫医科大学
◆協力施設：東京大学高齢社会総合研究機構、東京大学死生学・応用倫理センター、東京都健康長寿医療センター、国立長寿医療研究センター
◆主催：国立大学法人岡山大学（学長・森田 潔）、岡山大学大学院歯学総合研究科（研究科長・谷本光吉）、岡山大学病院（病院長・廣野博史）、岡山大学歯学部（歯学部部長・窪木拓男）
◆問い合わせ：事業責任者 窪木拓男
〒700-8525 岡山市北区鹿田町2丁目5番1号 岡山大学大学院歯学総合研究科インテグランド再生補綴学分野内
TEL086-235-6680 FAX 086-235-6684 E-mail kuboki@md.okayama-u.ac.jp

本講演ならびにシンポジウムは、平成26年度文部科学省大学改革推進補助金（事業名：健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—）により実施されます。

老人介護施設を用いたPBL演習

実習スケジュール 対象: 3年次生 (Early Exposureとして)



- ・現状の問題点を改善するための方策について考える
- ・要介護高齢者への歯科的介入を支える基礎的知見や臨床エビデンスが不足していることに気づく

8日目(7月29日): 経験した問題点とその解決策を**発表し議論**する

5-7日目(7月4, 11, 25日): 少人数グループ学習
解決策の検討

1人の要介護高齢者及び介護職員と2度接する機会を設け、介護老人保健施設の現場で歯科医療がどの様に参画ができるかを体験する

4日目(6月27日): 老人介護施設見学2回目
インタビュー

3日目(6月20日): 少人数グループ学習
問題点抽出

学生を大学から地域の要介護高齢者医療・介護現場に連れ出す

2日目(6月13日): 老人介護施設見学1回目
インタビュー

1日目(6月6日): 講義
「在宅診療における食支援」
日本歯科大学 菊谷先生



合同発表会(振り返り学習) 7

在宅歯科医療実習に出向く前の シミュレーター教育



- 四肢の関節は可動で、かつ、曲がった状態を保持でき、頸部は後屈困難な状態を再現できる。車椅子からのチェアへの移乗、ベッドでの歯科処置を想定。
- 口腔部は歯列模型を着脱可能な状態で、口腔ケアができる。
- 本シミュレーターは、岡本・宮脇卓也教授と株式会社エムエフエムの共同開発

高度医療支援・周術期口腔機能管理実習

行動目標

1. 急性期病院でチーム医療を構成する職種を列挙でき、その中での歯科医師・歯科衛生士の役割について理解し、説明できる
2. 周術期管理センターなどでのチーム医療同行実習等を通じて、各職種が互いに求める役割や有病者歯科治療の実際を知る

大学病院で展開される多職種連携医療をそのまま実習の場として利用

1. 初日ガイダンス

教員とのディスカッションを通じて、学習目標を設定

医療人としてあるべき姿を一緒に考えましょう

3. 振り返り(修了試験)

各チーム医療同行実習後と最終日に振り返りを行い、互いの学びを共有・構造化

2. チーム医療同行実習

周術期管理センター



実際の患者および家族に同行して病院各部署を回ります

腫瘍センター (外来化学療法室)



Bio-Clean Room (造血細胞移植を主目的とする病室)



ICU口腔ケアラウンド



緩和ケアチームラウンド



実際の医療現場を体験します

急性期医療の現場で活躍できる歯科医療人の養成

在宅介護歯科医療実習

文科省通知・9 高医第43号(平成9 年10月1 日)「臨床教授(臨床助教授・講師を含む)」(仮称)の称号の付与について(通知)に従い行っ

た

目的

- ・在宅医療・介護現場にて歯科医師が果たすべき役割を理解するとともに、医療・介護多職種連携チームのスタッフの役割を知る。
- ・学生参加型の実習を行うことで、歯科医療に求められる課題を発見し、解決法を見出す能力を養う。

地域医療機関と連携した地域基盤型臨床医療教育

岡山大学歯学部



学生派遣



開業歯科医院
(臨床講師)



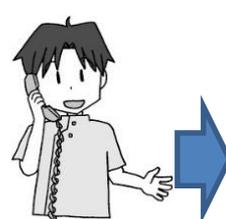
協定



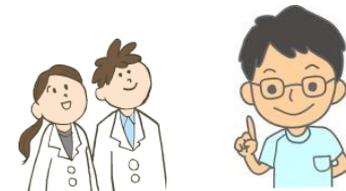
病院歯科(臨床教授)



病院歯科(臨床講師)



実習アポイント取得



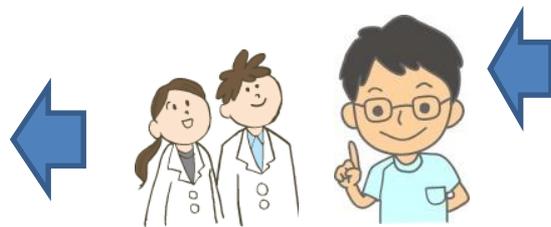
臨床講師(教授)による
オリエンテーション



在宅および介護施設
への訪問歯科診療に
同行
歯科治療および口腔
ケア(見学・自験・介
助)



振り返り(報告会)



実習後のディスカッション

地域の在宅医療現場において医療・介護多職種連携チームの一員として活躍できる歯科医療人の養成 10

在宅・訪問歯科診療実習の実績

	平成27年度	平成26年度
実習参加人数	54名(全臨床実習生)	59名(全臨床実習生)
学生1人あたりの訪問日数	2日	1-2日
担当臨床講師数	20人	14人
訪問施設数合計	233件	149件
症例数合計	534症例	329症例
学生1人あたりの訪問施設数	4.3施設(2-13施設)	2.5施設(1-8施設)
学生1人あたりの症例数	9.9症例(5-21症例)	5.6.症例(1-20症例)
自 験	27.0%	
介 助	17.8%	
見 学	55.2%	

歯科医師臨床研修においても同時に改革進行 (課題解決型高度医療人材養成プログラムの成果の活用)

● 摂食嚥下
リハビリ研修から
スタート

2006年(平成18年度)～
摂食嚥下リハビリテーション研修

● 急性期病棟
研修に拡大

2011年(平成23年度)～
周術期口腔機能管理研修

● 知識の確
実な伝達
● 倫理観の
醸成

2016年(平成28年度)～
OCWを利用した電子授業の視聴

● 在宅現場で
のOJTに
● シミュレーショ
ン実習を補完

在宅歯科医療研修
2018年(平成30年度)～
訪問歯科診療研修完全実施

摂食嚥下リハビリテーション研修

●8:30～ オリエンテーション

(本日の予定説明、VE画像(本)にて予習、アンケート記入)

●9:00～12:00 (見学)

外来見学、病棟見学 (見学ケースがなければ、相互実習)

●12:00～14:00 (昼休憩)

病棟見学・昼休憩

●14:00～16:30 (見学)

外来見学、病棟見学(見学ケースなければ、相互実習)

○相互実習

VE検査の相互実習を午前、午後のいずれかの見学時間内に行う。また、頸部聴診、RSST、MWSTの相互実習を実施。

(2又聴診器、頸部マイクの使用も可)



<VE実習の内容>

被験者になること

水分ロミ、水分、用意した被験食品の摂取

VE画像中の構造物の確認(説明)

軟口蓋・声帯の動き、ホワイトアウトの確認(説明)

嚥下内視鏡検査（VE） 実習のお知らせ

岡山大学病院研修歯科医の先生を対象にVE実習を行います。
VEの操作を体験して、臨床診断と対応法を解説します。
症例検討会（Gulp Meeting）前に実施しますので、実習後の
検討会のみ見学希望の方もご参加下さい。

講 義：評価時にVEを用いるポイント（約30分）

模型実習：内視鏡の操作方法（15分）

相互実習：VEの評価手順と介助方法（30分）

症例検討（Gulp meeting）（19:00-約90分）

日 時：2019年5月30日（木）
17：30-20：30（予定）



場 所：スペシャルニーズ歯科センター 外来
（Gulp Meetingは、Co-dental Education Center）

準備物：相互実習用に食べ物、飲み物を持参して下さい。



超急性期病院(岡山大学病院)で展開される多職種連携医療をそのまま実習の場として利用

有病者に対応可能な
歯科医師になる能力を
身につける一歩にしましょう

1. 初日ガイダンス

教員とのディスカッションを通じて、学習目標を設定

医療人としてあるべき姿を一緒に考えましょう

2. チーム医療同行実習

周術期管理センター



実際の患者および
家族に同行して
病院各部署を回ります

腫瘍センター (外来化学療法室)



Bio-Clean Room (造血細胞移植を主目的とする病室)



ICU口腔ケアラウン 緩和ケアチームラウンド



実際の医療現場を体験します

3. フィードバック

チーム医療同行実習後に振り返りを行い、互いの学びを共有・構造化

基本的なタイムスケジュール

【月曜日(1日目)】

- ・集合時間は**8:45**
- ・集合場所は**医療支援歯科治療部 診療室**
(月曜以外が1日目になった場合はその都度連絡します)
- ・**体温を計測してから実習に来て下さい。**

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
AM	オリエンテーション	腫瘍センター	診療室	診療室	周術期管理センター (PERIO)
PM	ICU Intensive Care Unit	BCR Bio Clean Room	緩和ケアチームラウンド	診療室	診療室

* 患者状況によって日程が変更になる可能性があります。

フィードバックは原則として次週火曜の17時から実施

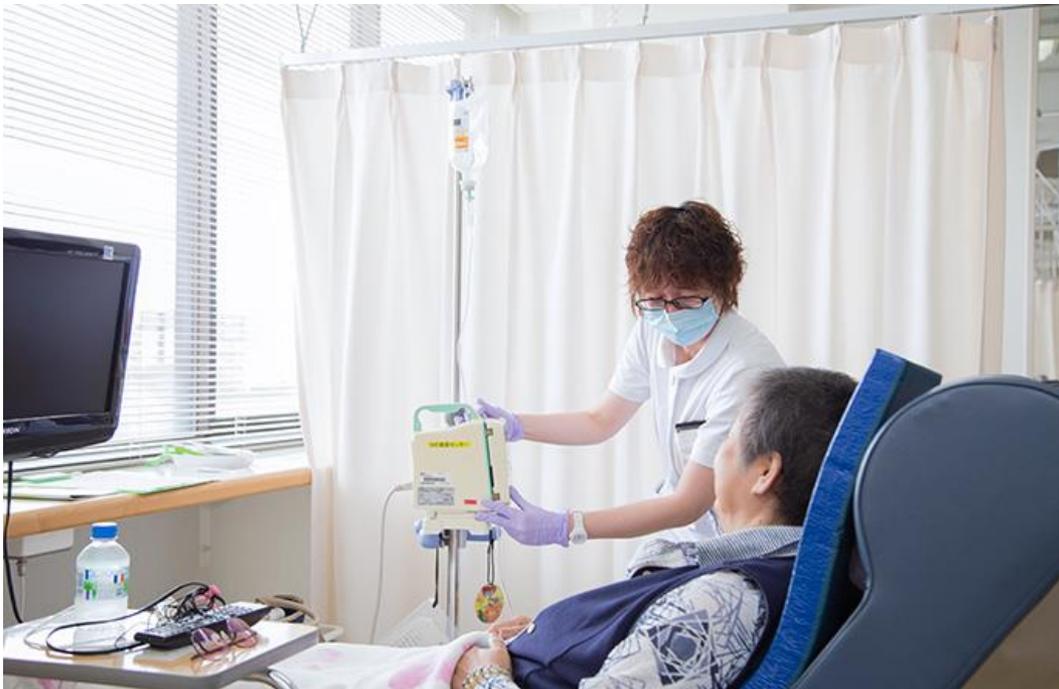
ICU (Intensive Care Unit)



http://nurse.hospital.okayama-u.ac.jp/section/section_sc4_2.php

ラウンドに同行し、患者さんの口腔内を一緒にアセスメント 17

腫瘍センター(外来化学療法室)



<http://www.okayama-u.ac.jp/user/gann/kagaku/>

http://nurse.hospital.okayama-u.ac.jp/section/section_sc1_3.php

多職種によるアプローチを学びましょう

BCR (Bio-Clean Room) 実習

空気換気を徹底して常時行っている、
病棟で一番清潔な所と言えるレベル



易感染期における口腔管理のあり方を考えましょう 19

周術期管理センター



緩和ケアチームカンファレンスならびに病棟ラウンド



<http://okayama-kanwa.jp/team/index.html>

歯科医師としてサポートできることを考えましょう

在宅歯科医療研修

- 電子授業
 - シミュレーション実習
 - 訪問歯科診療
- の3つの研修で構成

(6) 在宅等訪問歯科診療

【一般目標】超高齢社会での歯科医療の役割を理解し、在宅等歯科医療に貢献できる知識・技能・態度を習得する

行動目標	必須症例	日付											
超高齢社会での歯科医療の役割を説明できる	セミナー聴講(15回)	e-learning講義を受講する。	/	/	/								
訪問歯科医療のためのシミュレーショントレーニングを受講する	1回	シミュレーション実習を受講する。											
訪問診療を経験する	(協力施設で1日研修)	協力施設で訪問診療を経験する。	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

訪問診療については経験患者数分の検印もらう・自験した内容については各欄に検印をもらう

シミュレーション実習

機材・患者の位置、役割決め



役割
・術者
・アシスト
・介助者
・観察者

車いすでの治療

- ポータブルユニットの使用
方法
- 車椅子・ベッドでの歯科治
療
- 体位変換・移乗実習
- 口腔ケア実習
ベッドサイドでの治療



体位変換・移乗



車椅子での歯科治療

体位変換・移乗実習

口腔ケア実習

在宅・訪問歯科診療

〒702-8026 岡山市南区浦安本町73-6

[アクセス] 岡山駅より岡電バス岡南飛行場、浦安本町下車、徒歩1分 / 岡山市役所から車で約30分

岡山大学病院

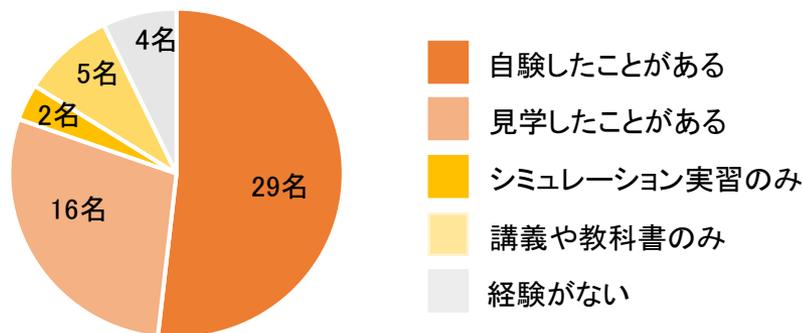


- 実習開始は5月中旬以降
- 曜日は火・水
- 移動手段:バス
- 集合時間 8:15~
全体朝礼→事前説明→出発
- 昼食は各自用意, 院内で食事
- 飲料水も持参のこと

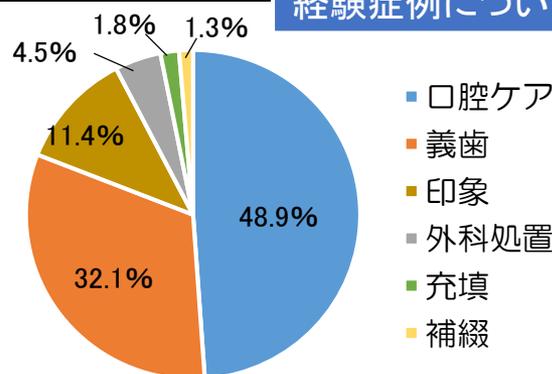
研修歯科医全56名を対象にアンケート

2018年度

学生時代の訪問歯科診療の経験について

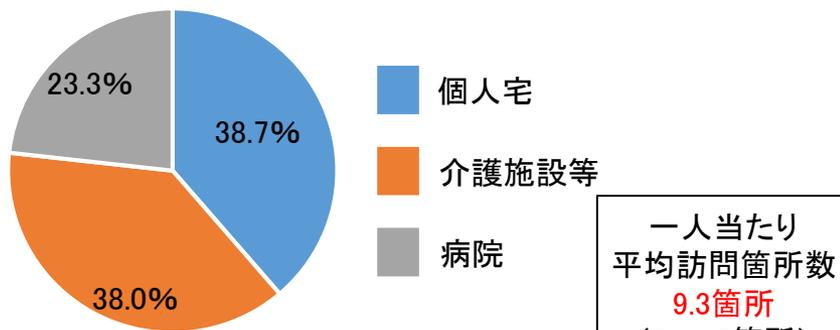


経験症例について



一人当たり
経験症例数
14.0症例
(5~23症例)

訪問場所について



一人当たり
平均訪問箇所数
9.3箇所
(3~15箇所)

在宅歯科医療に携わりたいと思うか

→1(全く思わない)~5(非常に思う)の5段階で点数化

実習前 3.54 → 実習後 4.00

実習後に有意に携わりたいと考えるようになった(Wilcoxonの符号付順位和検定)

一方、過去の進路と比較して、2018年度の研修歯科医の進路は、大学院進学15名、後期研修5名、一般開業医36人と例年と内訳に大差なく、本研修実施による進路への影響は認められなかった。すなわち、摂食嚥下や医療支援歯科治療部への進学、訪問歯科診療を行っている一般開業医への就職の増加は認められない。

問題点(課題)

- 教員のマンパワー不足 → 各専門の教員が必要であるが不足
- 訪問歯科診療: 協力施設の選定とFD
 - 施設選定: 現在は, 複数の指導医がいる協力型施設に依頼
 - 移動を考えると近場の施設が良い
 - 複数の施設を経験させることも必要か
- 見学か自験か
 - 学生教育との連続性, 基本的には自験
- 介護認定制度、保険制度
 - 大学内だけでは実際の現場を学ぶことができない
- 本研修のキャリアパスにおける意義
 - 全てを経験できるわけではないが、超高齢社会のこれからを考えると, このような研修を経験することは、将来の選択肢としての道を示すのに非常に重要

生涯学習への連結

ミールラウンドを模したSmall Group Discussion

岡山県医療介護総合確保基金事業とのコラボレーション



医師，歯科医師，歯科衛生士，管理栄養士，看護師，薬剤師，作業療法士，ケアマネージャー，介護福祉士などがテーブルを囲み，多面的に症例を掘り下げる。

謝辞(敬称略)

本発表の内容は、文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラムの補助を一部受けて行われています。

槇野博史(岡山大学長)
那須保友(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科長)
金澤 右(岡山大学病院長)
浅海淳一(岡山大学歯学部長)
松岡順治(岡山大学病院緩和支援医療科)
大原直也(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科)
宮脇卓也(岡山大学病院歯科系代表副病院長)
飯田征二(岡山大学病院副病院長)
久保田聡(岡山大学副歯学部長, 教務委員長)
森田 学(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科)
皆木省吾(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科)
鳥井康弘(岡山大学病院総合歯科)
曾我賢彦(岡山大学病院医療支援歯科治療部)
山中玲子(岡山大学病院医療支援歯科治療部)
園井教裕(岡山大学病院医療支援歯科治療部)
江草正彦(岡山大学病院スペシャルニーズ歯科センター)
村田尚道(岡山大学病院摂食嚥下リハビリテーション外来)
武田宏明(岡山大学病院総合歯科)
伊野英男(医療教育センター)
杉本恭子(医療教育センター)
矢尾真弓(医療教育センター)
水口真実(岡山大学病院クラウンブリッジ補綴科)
縄稚久美子(岡山大学病院クラウンブリッジ補綴科)
前田あずさ(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科)

連携大学

北海道大学(八若保孝, 横山敦郎, 井上 哲, 山崎 裕, 高橋大郎)
金沢大学(川尻秀一, 中村博幸)
大阪大学(天野敦雄, 池邊 一典, 長島 正)
九州大学(古谷野潔, 中村誠司, 西村英紀, 箱崎晴彦, 築山能大, 水谷慎介)
長崎大学(澤瀬 隆, 村田比呂司, 角 忠輝, 齋藤俊行)
鹿児島大学(宮脇正一, 松口徹也, 西村正宏, 田口則宏)
岩手医科大学(三浦廣行, 石崎 明, 城 茂治)
日本大学(前田正夫, 本田和也, 植田耕一郎, 阿部仁子)
昭和大学(宮崎 隆, 弘中祥司, 片岡竜太)
兵庫医科大学(岸本裕充, 中村 祐己)

協力施設

東京大学高齢社会総合研究機構(辻 哲夫, 飯島勝矢)
東京大学死生学・応用倫理センター(清水哲朗, 会田薫子, 日笠晴香)
東京都健康長寿医療センター(新開省二, 平野浩彦)
国立長寿医療研究センター(角 保徳, 大野友久)

水口俊介(東京医科歯科大学)
菊谷 武(日本歯科大学多摩クリニック)
沖野雄一郎(岡山県保健福祉部健康推進課)
中野田紳一(株式会社インサイドフィールド)

- ◆主催:岡山大学, 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科, 岡山大学病院, 岡山大学歯学部
- ◆後援:岡山県医師会, 岡山県歯科医師会, 岡山県看護協会, 岡山県栄養士会, 岡山県歯科衛生士会, 岡山県言語聴覚士会, 岡山県介護支援専門員協会, 岡山市歯科医師会, 日本在宅栄養管理学会²⁹